

保育園では節分に向けて各クラスそれぞれに味のあるお面を作って飾ったりしています。すみれ組さんたちは、それぞれに自分たちで作ったオニのお面を見せてくれました。さくらさんたちは張り子で作ったお面に自分がイメージしたオニの顔を描いて、可愛いオニや強そうなオニのお面を作っています。

幼児クラスは散歩先で取って来た鬼の苦手な“ヒイラギ”の葉の“お守りペンダント”も作りしました。小さい子たちの分も作って手渡しに行く予定です。



2月3日の節分当日は保育園に待望の？鬼がやってきます。子どもたちと豆まき（新聞紙を丸めた豆）をして、無病息災を祈りたいと思います。

命のはなし

子どもたちに、命が生まれてくることの素晴らしさと、その命を大切にしてほしいという思いから、助産師の山形さん（どんぐり保育園OB）に保育園に来てもらい、「命のはなし」を5歳児さくらさんたち対象に行いました。

あかちゃんが生まれてくるまでの話しや、今、お腹にあかちゃんがいるすみれ組の亀井母さんに来てもらってあかちゃんの心音を聞かせてもらったり、はがき大の黒画用紙に針で穴をあけたものが手渡され、「この小さな穴、自分の最初の体の大きさだよ」と教えてもらおうと「えっ!？」と驚いている子どもたちでした。

そして、このあかちゃんが少しずつ大きく、そして重くなっていく実物大のモデルを見せてもらいながら、実際に抱っこし、あかちゃんの重さを感じとっていた子どもたちでした。

子どもたちは、“生まれてくるときあかちゃんが一番がんばった”“黒い点（あかちゃん）があんなにちいさかったんだとおどろいた”“かわいかった”など感想を出し合っていました。

家に帰ってからも、親子で生まれてきた時のことなど話し合われたようで、「あかちゃん抱っこしたら重くてびっくりした!」とか、黒い紙を光にかざしながら「父も母も姉もみんな最初はこんなに小さかったんだよ～」と話してくれた、あかちゃんだった自分がいろんな人に抱っこされている写真を見てムズムズ嬉しい感じになっていた等々いろいろお家からの感想もいただきました。

/// 山形さんから子どもたちへのメッセージ ///



- 一人ひとり、待ち望まれて生まれてきた世界でたった一つの大切な宝物である。
- お母さんのおなかの中で10カ月いて、頑張って生まれて来たこと。
- 命を大切にすること。それは自分自身を大切にすること。
- まわりの人のことも大切にすること。

